

(部分)責任実習 指導計画

実習指導者

印

実習生氏名

印

20xx 年 ○ 月 ○ 日 ( △ )		場 所	室内ホール (または園庭などの広い場所)
主な活動 (題材)	誰でも！風船バレー		実習 クラス ( 3・4・5 )歳児 ( )組 男児( )名 女児( )名 計( )名
幼児の姿 (前日までの 幼児の姿を 多面的に捉 えて書く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>このクラスは、異年齢混合クラスであり、障害のある子どももいるなど、多様な発達段階の子どもが在籍している。</li> <li>生活面では、年長児が年少児をサポートする様子が見られるが、やや世話を焼きすぎてトラブルになることもある。</li> </ul>		保育活動 のねらい <ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりにできる動きを工夫して、存分に体を動かす。</li> <li>友達や風船の動きに気づき、その動きにあわせて体を動かすことを楽しむ。</li> <li>友達と協力し、目標に向かって工夫する。</li> </ul>
時間	環境構成	予想される幼児の活動	保育者の援助・配慮
10:00 (導入)	ホール  準備物 ・風船6個 (何色か) ・コーン ・ビブス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホールに移動して、保育者のまわり集まる。</li> <li>○子どもにその場で座るように促し、手遊びを行う。(手遊びは、風船に関連するもの・色に関連するものが望ましい)</li> <li>○保育者のポケットから、いくつか風船を取り出す。</li> <li>・一つひとつ風船を見せながら、いろいろな色があり、引っ張ると伸びることなどを話し合う。</li> <li>・子どもたちの前で、風船を膨らませて見せる。</li> <li>・膨らんだ風船の口を縛らずに、手を離すとどうなるか、話し合う。</li> <li>・実際に、口を縛っていない風船を飛ばして、様子を観察する。動きや音の変化を話し合う。</li> <li>・次に、口を縛った風船は、どのような動きをするか話し合う。</li> <li>・実際に、風船をいろいろな方向や強さで投げたり、弾ませたりして、動きの違いを話し合う。</li> <li>・風船をつまんだり、踏んだりすると割れることを知る。なめたり、噛みついたりすると、みんなで気持ちよく使えないことを知る。</li> <li>○主活動を行う。</li> <li>○風船バレーでうまくいくコツや、友達の上手だったプレイなどについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者の声が聞こえる場所に子どもが集まるよう場所を示す。</li> <li>・場所が定まらない子がいいたら、マーカーコーンなどを使って、場所を示す。</li> <li>○風船に触りたくなる子どもがいいたら、触って確かめさせる。確認したら、保育者に戻すよう促す。</li> <li>・受け取ったときに、なめたり、膨らませたりしないことをあらかじめ伝えてから渡す。</li> <li>○風船の動きや音に注目しやすいうように、手を放すときは「3・2・1」などの合図をする。</li> <li>○子どもが風船の動きを目で追っているか確認する。</li> <li>・動きを目で追えない子がいいたら、風船が飛んでいく方向を指差し、見る方向を示す。</li> <li>○風船の動く速さや、方向などについて気づきを促し、どのように腕や手を動かすか前に飛ぶかを考えさせる。</li> <li>・風船が割れるのではないかと不安に思う子どもがいいたら、イヤーマフなどの使用を認める。音が聞こえなければ、それほど怖くないことを知らせる。</li> <li>・風船が割れると怖い思いをする友達がいることを知らせる。割れないように使うことで、長い時間、楽しく遊べることを知らせる。</li> <li>・なめたり、噛んだりすると、風船が濡れることを知らせ、その風船で遊ぶとどんな気持ちになるか、子どもと一緒に考える。</li> <li>○うまくいくコツや、見本となるプレイを振り返ることで、もっと上手になりたい気持ちを引き出す。</li> <li>○「友達がこんな風に協力してくれたから、うまくいった」などのエピソードを引き出し、仲間と協力するメリットに気づかせる。</li> </ul>
10:10 (主活動) ※サブシート参照 10:25 (まとめ) 10:30			
自己振り返り・評価等			